
Re:サイクル

1班 あにまる

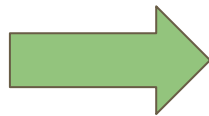
1.アイデアの概要

「脱炭素行動」で、ポイントを貯めよう！

岡山ポイント



日常生活で、炭素排出を避ける行動をする



岡山県内で使えるポイントが貯まる！

1.アイデアの概要

「脱炭素行動」とは

→二酸化炭素排出量をゼロにさせる日々のライフスタイルの「選択」

例)

- エコカーを買う
- エコ(省エネ)家電を買う
- フリーマーケットやリサイクル
- 脱炭素に繋がるイベント
- レジ袋よりマイバック
- 公共交通・自転車を利用する
- 再エネ電気への切り替え
- クールビズ・ウォームビズ
- 節電・節水

(3) 令和元(2019)年度温室効果ガス 部門別排出量(速報値)

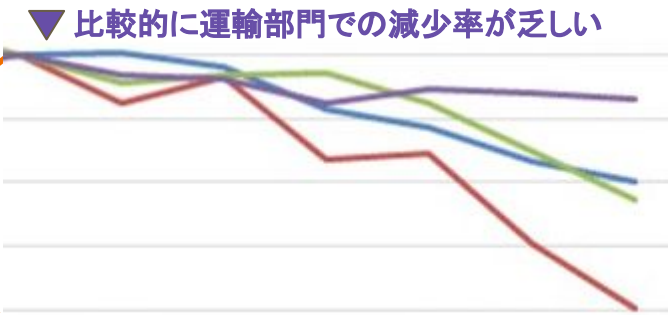
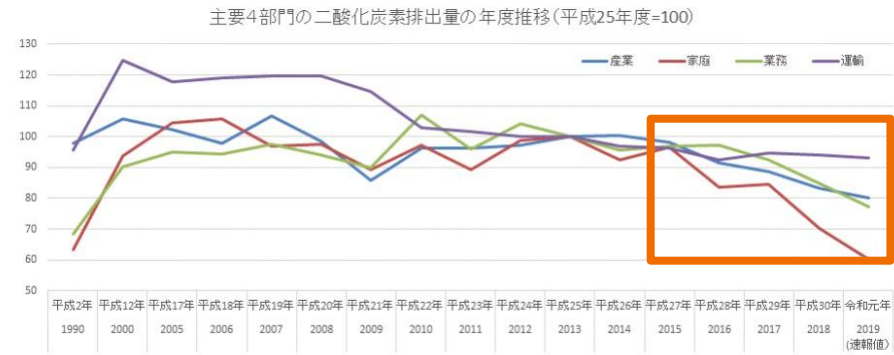
排出量の合計が、基準年度比で、991万トン、18.6%減となった主な要因は、構成割合が約6割である産業部門が基準年度比で652万トン、20.0%減少、家庭や業務の民生部門で254万トン、32.1%減少したことである。

区分 (単位:万t-CO ₂)		基準年度 H25年度 (2013)	＜速報値＞ R元年度 (2019)	基準年度比 増減量	基準年度比 増減率	2030年度 目標削減率	構成 割合	全国の 構成割合
二酸化炭素	産業部門	3,267	2,615	△652	△20.0%	△6.5%	60.5%	31.7%
	製造業	3,231	2,588	△643	△19.9%	—	59.9%	—
	民生部門	793	539	△254	△32.1%	—	12.5%	29.0%
	家庭	430	259	△171	△39.9%	△39.3%	6.0%	13.1%
	業務	363	280	△83	△23.0%	△39.8%	6.5%	15.9%
	運輸部門	445	415	△30	△6.8%	△27.6%	9.6%	17.0%
	自動車	387	366	△21	△5.4%	—	8.5%	—
	エネルギー転換	456	426	△30	△6.5%	△27.6%	9.9%	7.1%
	工業プロセス	136	132	△4	△2.6%	△6.8%	3.1%	3.7%
	廃棄物部門	99	54	△45	△45.4%		1.2%	2.5%
計		5,196	4,181	△1,015	△19.5%	△15.4%	96.7%	91.4%
メタン		41	37	△4	△8.4%	△12.2%	0.9%	2.3%
一酸化二窒素		24	24	0	0.7%	△4.2%	0.6%	1.6%
代替フロン類		54	82	28	51.2%	△25.9%	1.9%	4.6%
合 計		5,315	4,324	△991	△18.6%	△15.5%	100.0%	100.0%
全国<確定値>		1,408 百万 t	1,212 百万 t	△198 百万 t	△14.0%			

二酸化炭素排出は、日常生活と密接に関連した部門が多くを占める

※ 令和元(2019)年度値は暫定値として公表されている都道府県別エネルギー消費統計等の数値を用いて算定したものであり、速報値として取りまとめた。

※ 桁数処理の関係で合計・比率等の計算が合わない場合がある。





岡山県内の商店・商店街



ローカルフリーマーケット

2.独創性・新規性

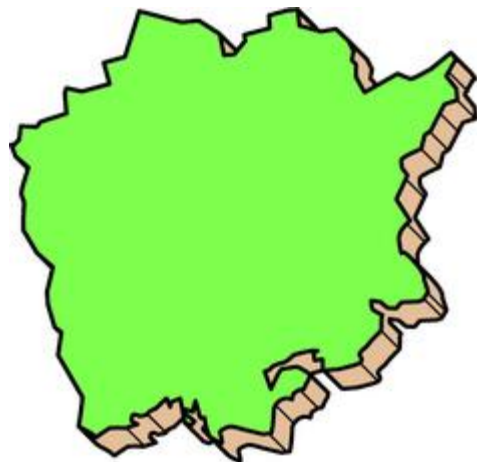
脱炭素に繋がるイベント

・スタンプラリー、ツアー

岡山県内を自転車を使って巡る

例 来館者日本一の岡山県立図書館

→脱炭素行動＋観光促進・地域活性化



2.独創性・新規性

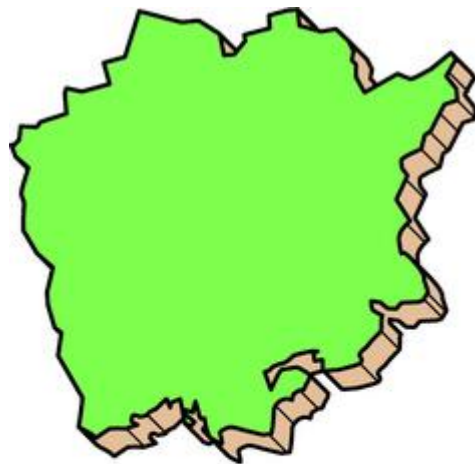
日常生活の脱炭素を目指す

脱炭素行動をした時にポイントが貯まることによって、自分が脱炭素に貢献していることが目に見える

・貯めたポイントは繁華街、フリーマーケットなど

日常生活で利用可能

ポイントを貯める＝自然と脱炭素行動



3.実現可能性

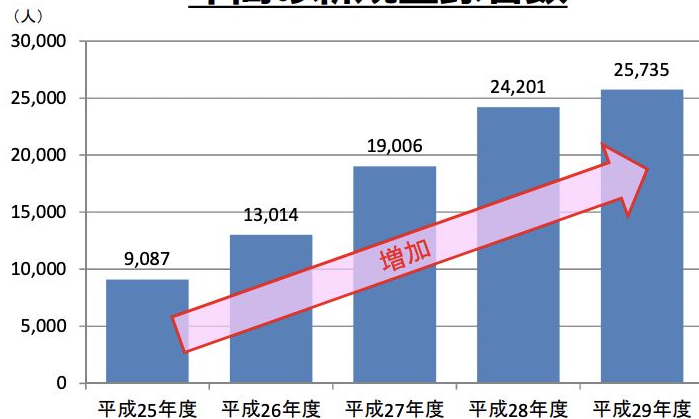
自転車イベント

岡山で使われている“ももちやり”の利用率を考えると始めやすいと考えられる！

グラフを見ると、
増加傾向がわかる。



年間の新規登録者数



年月	ポート数 (箇所)	自転車台数 (台)
平成25年度	17	140
平成26年度	25	232
平成27年度	35	332
平成29年度	34	412

拡大

3.実現可能性

フリーマーケットイベント

家の使わないものを使った、フリーマーケットも用意する物がなく、始めやすい。

場所があればできる！

エコバッグの利用

どんなバッグでも、ビニール袋を使用しないで、という手軽さが始めやすい

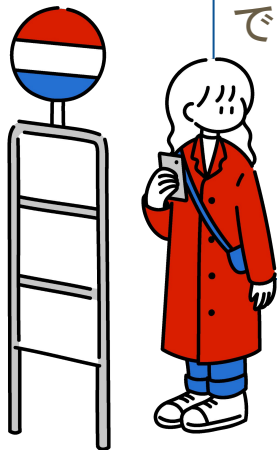
荷物を入れる袋があれば参加可能！



3.実現可能性

Point

参加人数の見込みがあり、すでに使用されているものを活用することで、新たに調達しなければならないものがない点。



4. 環境への貢献度

日常生活の脱炭素を目指す

民生部門：“レジ袋”や“着れない洋服”を無駄にしない脱炭素

運輸部門：CO₂を多く排出する自動車から自転車へ使用を移行

ポイント還元を上手く使用することで、岡山県民の環境への意識も上げる